

☆ 農政特集 ☆



売るものも
買うものも
みんな、くみあい
「貯金」も農業の役
に立たせるために、
みんなの
農協へしましょう
大根占、神川
農業協同組合

※ 開放体制下の農業

ことしの七月、経済企画庁が発表した「経済白書」の中で「転換期の農業」と題して次のように述べています。

農業も、以前には労働力が豊富で労働集約的な経営が有利だったが、日本経済が労働力不足へと変化するにつれ、ゆき方を変えていくことが必要となり、開放体制という新しい条件にも適応してゆかねばならない

農業から他産業への人口流出は著しく(略)農業からの人口流出は経済の成長に伴って当然のことだが(中略)兼業農家は三七年には総農家数の七五%を占め、兼業を主とする農家が四一%にも達している。(中略)人口の流出によって、農業就業者は老齢婦女子化の傾向が

農業に奇策はない
地道な努力が近道

強まり、農繁期の労働力不足がみられ、農業日雇賃金も二〇%程の上昇を示している。このため機械の導入が進められたが、機械を入れても、経営が小さく充分に稼働できず、かえって経営の負担になっている。(中略)農業の生産性をあげるには経営の大規模化が必要だ。

力を合わせて

町長 坂元左武郎

(略) 開放体制の下では、農産物の選択的拡大の方向は、国内需要の動向だけではきまらない。(中略)日本の激しい人口の流出の中で増大する農産物需要に比べ、おくられている経営構造の近代化を進めなければならぬ。

でも検討の必要がある。また、九州経済調査会は、「開放体制と鹿児島経済」という報告の中で(一〇・二七南日本新聞)四月からスタートした国際的な開放経済の中で、農業と中小企業中心の鹿児島県ではこれからその体制づくりをするという不利な条件で、全国で一番深刻な地域だ。とくに農業は、輸入農産物に對抗しなければならず、開放経済の中では政府の保護政策にも限

※ 現実をよくみつめよう。

さて、前項で掲げたようにいま、日本の農業、とくに鹿児島県の農業は、非常にきびしい立場にあることを改めて考えさせられます。

開放体制(貿易の自由化)に入ったことし、まず、大きな打撃を受けたのは「甘しょ」です。昨年の最盛期一俵五〇〇円もした甘しょが、こ

こんどの台風二〇号では、米や、甘しょなど大きな被害を受け、加えて甘しょ価格の大暴落で、農家のみなさんの御心情を思うとき、言葉の尽しようもございません。町でも関係方面に、いろいろ善後策をお願いしておりますが、現在の事態では、町だけの力では、どうしようもなく、県下の町村、農業団体が結束して、政府に強力な援助措置を緊急に実施するよう要望いたしております。

水陸稲の減収で、自家飯米の確保もむづかしく、また甘しょの安値などで、ほかに現金収入の道なく、町外へ働きに出られる方も多いというところで、現在の段階では、私どもの力の遠く及ばないところ、残念ながら止むを得ない事情であります。

夫婦、親子が、相当長期間にわたって、別々に生活されることは、本当によく々のこととて、子弟の教育上にも好ましくありませんが、願わくば将来農業で自立できるだけの経営耕地等のある方はまた帰ってきていただいて、自立経営の確立に努力されるよう希望します。

苦しいときは、大根占町だけでなく、県内の、全国の農家もまた、その苦境を打開するために苦闘するわけです。みなさん、いまが、気張りどきだと考えられて、ともどもに、力を合わせ切りぬけて行こうではありませんか。

核病のために、大巾な作付減が予想され、冬作の二つの柱「むぎ」、「なたね」には期待できない実情です。

農業で自立する場合(三六年基準)農業所得七五万円、(租収益二二〇万円)を目安にすると、経営規模は二・五ヘクタール、鹿児島県の場合、仮に何か一つだけでこれだけの収益を上げようとするとすることとなります。

※ 今後をどうする

このような、経済の動き、農業の置かれた立場を改めて考え、これからのことを考えてみますと、まず第一に二つに大別されます。

一つは、農業だけで自立する。一つは、農業だけで自立する見込みがうすい場合、農業以外の収入を増加するようになる。わかりきったことですが、また決断するには、実際に、仲々むづかしいことです。

町内でも牧野改良や、飼料作物の増反、てんさいの茎葉の飼料化でよい成績を上げている農家もあります。

可能であるならば規模の拡大と、経営に見合った機械化を計り、災害で大きな痛手を受けたあと、非常に苦しい事情になっていますが、希望を捨てずにやりぬきましょう。

鳥浜災害地の

年度内着工を要請

一四号台風の豪雨で崩壊した鳥浜水田上の山腹災害防犯事業は、このほど県当局で調査設計を完了、緊急防災事業として農林省へ申請されました。

事業費は、およそ九〇万円を要する見込みで、事業はとりあげられることに内定したものであるので、町ではこのまゝ放置すれば、さらに被害が大きくなる恐れがあり、再び災害が起きないよう、また冬の間に農家の現金収入を得るためにも、一日も早く、三九年度事業として着工してもらいよう、県に要請しています。

農家の皆さんへ

議会議長 本釜 清

麦、なたねの被害に相次ぐ台風によって、農作物は更に主食に及び、全く農家は如何にして生産を維持すればよいのか、途方に暮れているのが今日の農家の姿ではないかと思ひます。

又澱粉価格の下落により、甘しゅ価格は値下りをして、労働力が益々成長産業へ流失しつつあることは、我が町におきまして、重大な問題と云ねばなりません。

このような、農家経済の不振により、労働力の減少と現金収入の減収を如何にして調整すべきか、議会においても

真剣に討議されている次第であります。

差当り町といたしましては昭和三十九年度から城元地区の区画整理事業、四十年から、農業構造改善事業が実施されることになっておりますが、このことは、一つには労働力の吸収と、農家の現金収入を図ると共に、農業経営の合理化対策であり、農業近代化への、分岐点にたたされて

いるわけでありませう。

私共も、この農家の危機を打開すべく、県議長会、県町村長会と共に澱粉の全量買上げを政府に陳情する一方県に

浜、皆倉の三地区を実施することとして計画作成にかり県の予備審査も終り現在熊本農政局で審査中であります。その計画のあらましは、別表のとおりとなっています。また、今回の第一次改善事

対しては、町村に一般土木農業土木等の事業を委託し、農家が現金収入を得られるような施策をしていただきたいと御要望申し上げている次第であります。

議会といたしまして、町と一体となって町の経済進展のために、総合経済の基盤の上に農政が進められ、住民が共に恩恵に浴するよう努力する覚悟でございます。

何卒農家各位におかれましては、農家各位に、もう少し、意欲を燃し、そして、お互いが、意見の一致するところに向つて、農家の発展のために努力しようではありませんか。要を得ませんが、激励の言葉になれば幸いかと思ひます。

業が実施できなかった地区は第二次分として実施する予定で、基準に達するよう参加農家数、ほ地面積などをまとめるよう、話し合いを進めていただきます。

業が実施できなかった地区は第二次分として実施する予定で、基準に達するよう参加農家数、ほ地面積などをまとめるよう、話し合いを進めていただきます。

たばこ栽培と農家経営

の育苗にも利用できるよう考慮する必要があります。

(2) 乾燥施設のねらい

たばこ耕作の中でも最も多くの労働と設備を必要とする乾燥について、労働の節減、建設費の低減、熱効率の向上をはかるための従来の乾燥室の形式にとらわれず、耕作規模に合わせて共同で大型の効果的な乾燥室を建設し乾燥の合理化を図る。

(3) 圃場用の機械のねらい

機械力による作業を中心とした、たばこ生産でなければ労働生産性は高まらない。機械の導入に当っては他作物とも関連性をもたせ年間稼働状況を適確に把握し、機種についても管理運用等の点から見て、これを統一することが望ましい。

(たばこ耕作組合 大根占支所)

進してゆく必要がある。

(4) たばこ主産地の考え方

たばこ主産地については、たばこ耕作農家がある程度集団していてその多くのたばこ耕作の基準が高く常に向上、発展しようとする積極的な産地、その地域では農産物のうちたばこを有利とし、農家経営の主要な収入源となつており将来ともたばこ耕作に依存してゆくとする地域が必要である。

次に以上の基本的な考え方

から土地基盤の整備規模の拡大がなされた上には、必然的にその生産に対する管理処理方法として、経営の近代化施設が必要となつてきている。

(1) たばこの育苗施設のねらい

育苗は共同育苗はを行い、労働配分の合理化経営の節減の一なる健苗生産と作柄の統一による品質の向上をねらいとする。

なお、育苗施設の経済的利用を図るために、一般農作物

農業構造改善事業によって土地改良事業を実施し、たばこの栽培管理が合理化できるよう基盤を整理することによりたばこの土地生産性は一段と向上し今後、相当の品質の向上と共に、単位面積当り増収が期待出来る。

(3) 耕作規模と協業

たばこ耕作の規模は営農規模形態及び農業従事者等によって、決めるものであるから、画的には行かないが改善事業の目的にそつて、農業所得の向上を意図するためには、その規模をたばこ作農家の収入の主柱となる程度まで増加する必要がある。

我が町のたばこの平均面積は34ア



ルであるが、改善事業実施地域等において専門化して行く上には近代施設や新しい技術が合理的効果的に運営されるような、規模が必要である。また、個人の経営規模の増加にあわせて、苗床、乾燥作業などは今後更に 共同協業化を進め企業的たばこ耕作を推

池田など3地区に

第1次農業構造改善事業

事業の計画を作るに当つて、町で、これからのことも拡大してゆく作目(基幹作目)を、たばこ、ぼんかん、温州みかんとして、土地基盤の整備、近代化施設のあり方など基本方針を定め説明座談会を開きました。このうち、参加農家の数、ほ地面積などが基準に達しない地区が多く、ようやく、池田、鳥

別表1

事業計画

地区	池田	鳥浜	皆倉	計
参加農家数	60	36	40	136
土地整備	70 ha	35.4ha	11.1ha	116.9ha
経営近代化施設	41,800	9,020	3,410	54,230
計	3,468	4,100	1,730	9,298
補助金	45,268千円	13,120千円	5,140千円	63,528
融資	11,420	3,790	1,500	16,710
地元	2,854	966	388	4,208
乾燥施設	2,700			2,700
農機具	7,120			7,120
果樹植栽		7,175	3,335	10,710
計	9,820	7,175	3,535	20,530
合計	55,088千円	20,295	8,675	84,058

別表2

事業実施後の予想

(農業生産額単位千円)

区分	池田	鳥浜	皆倉
	現在	改善後	現在
たばこ	7,238	32,994	540
ぼんかん			88,200
米	7,328	9,463	2,810
甘しゅ	3,840	8,400	4,080
きぬさや			1,200
その他	875	131	1,250
和牛			
計	19,281	50,988	10,060
			96,690
			3,547
			29,090

註1、参加農家らんの()は、関係農家を含めた受益戸数である。

2 融資条件は 年利補助事業分6分5厘、単独事業分3分5厘、償還は据置期間を含めて事業の種類によって10~25年となっている。

全国的にたばこの売行きは依然として順調な伸びを続けており、さきに専売公社が葉たばこ長期増反計画を打ち出して以来、大根占でも昭和39年 総産付面積139.3ヘクタールとなり、こゝ3年間に約40ヘクタールの飛躍的な伸びをみました。

また、町の基幹作目の中にたばこが取り入れられ40年度から実施される構造改善事業では、池田地区を実施地域として計画がなされます。面積の拡大が期待される農業構造改善事業にたばこを取り入れる場合事業の目的を土地、労働の生産性向上におかねばならないが、その基本的な考え方はおおむね次のようである。

(1) 労働生産性の向上

過去の多投労働的な作業体系とそれに基く複雑で、小規模な経営態形を脱して耕作施設の近代化及び技術革新による合理化、能率的

な作業体系と簡素で大規模な経営形態に改善し、かつ協業化を進めることにより労働生産性の向上が期待される。

(2) 土地生産性の向上

たばこの土地生産性の向上は、葉たばこの品位を製造及び輸出の要求に適応させなければならぬから、単に数量の増加のみでなく質の向上が必要である。

そのためには優良品種の導入技術の改善と共に土地基盤の整備と土壤改良によって優良たばこの増収が期待されるのである。

大根占町の10アール当収量は5年前(35年度)の180キロ台から39年度258キロへと逐年増加の実績があり耕作経営上大きなプラスとなっている。

水稲の被害対策

14号及び20号台風により、39年産水稲は悲惨な状態で、特に山ノ口周辺の水田では県下でも筆頭に上がる被害で、当共済組合では10月15日から被害調査を実施し、平年の2〜3倍の日数をかけて評価し目下被害の実数について数字をまとめているが、大体の被害状況は、次のように推定している。

普通水稲 引受面積238町
収穫皆無4町、7割以上45町
3割以上172町減収量約4500キロ、共済減収量、319000キロ

二期水稲 引受面積23町
収穫皆無3町、7割以上、10町、3割以上残全部、減収量42000キロ、共済減収量29400キロ。

以上のようになりますが、さらに、農林省、県庁、連合会の作況調査も実施されたので、農林省に、概算払いを請求するとともに、数字のまと

まり次第組合員に早急概算払いをするよう事務を進めています。制度改正によって、被害金の財源が組合員掛金であるため掛金の納入がなければ支払うことができなくなっているため早急に掛金を納入し少しでも早く被害金をもらうよう要請している。

(農業共済組合)



経済の伸展に順応すべく現実をよく見きわめ将来の夢を追うべく学習の場(同志)を

わが国で、はじめて史上最大といわれる世紀の祭典「オリンピック」が無事終了し、おたがい高度の経済の成長と平和を祝福しました。

す経営拡大へのための農地管理事業の構想など企業経営への曙光とも云えることと考へ、将来自立農家を夢見る若人に魅力ともなることと考へます。

幸い、本町も来年度から農業構造事業を実施する予定で全力を尽かれています。なお、この時に当り計画立案者であられる坂元町長は再

農民の力を結集

神川農協長 宮園直矢

度町政執行者として当選されましたが、ひとえに町長の職見のしからしむるところで、町民は絶大な信頼と期待をもっているものと喜び申し上げます。しかし、農民の現状をよく見きわめられて、確固たる信念と決意をもって、抜本的政策のもと、全力を農政に傾注されるよう農民の一

苦難に打ち勝つてはじめて栄光ありと聞きます。

この災害を克服すべく、一大奮起しようではありませんか。近頃一時離農のため人手不足など言われますが、これも今日の農業の近代化には可

かもわかりません。しかし明日、否十年先のことを考えると一時しのぎの悪循環の連続で私のように近視眼的ではないかと考えます。

経済の伸展に順応すべく現実をよく見きわめ将来の夢を追うべく学習の場(同志)を

政治の改善は圧力なりと云われるように本年米価の値上げなど、本町では一部の上層農家への恩恵にしかならないでしょうが、イモ価格の下落など考える時、米価格とカラミ合わせた全国農民運動として、イモの支持価格並びに無制限買上げ予算などできなかつたものかと、思考する次第であります。

批判は易く行いはむづかしいものでありますが、已の場

たばこは嗜好品であるからなんといたって、第一に品質に重点が置かれる。

従って適地を選ぶことが大事であるが、一般的に言って温暖で日照が多く、排水のよい砂壤土が良く、南大隅が適地とされているが、最近の栽培技術の動向としては多収量を目的として品質を犠牲にした栽培が一般的であって、そのために多肥栽培となつて大型晩生化の傾向となり品質の低下はもろろん、病害の誘因となつている。

専売公社は外国産並の低ニコチン葉たばこの生産を目的

でなさねばならぬ数多くの仕事があるようであります。

災害の連続とは申してもこれを克服する者は已のみですやゝもすると耕作意欲の減退など考えられます。

このようなことがないよう奮起しようではありませんか。輸作体系や国際大豆価格(値上りのようであります)など考える時冬作にも再考慮すべき余地があるのではないかと考えます。

なお、資金の農協結集や甘しょの計画出荷による農協一元化など、数多く手近な問題があります。

農家の皆さん一年のしめくよりも甘しょで占める方々が多いことと考へますから、災害に打ち勝つ手助けとして、イモの値クツレがないよう計画出荷で頑張ろうではありませんか。

最近のたばこ産地

動向と今後の期待

として、かかる栽培方法では今後産地の安定と品質主義には逆効果のおそれがある。本年の作付においては、苗床期以降の温暖な気象に恵まれ、移植後の生育は従来にない生長を見たが、心止後の暴風雨により、落葉及び根群の異状の発生で、二次の生長をなし樹脂の育成が少なく、下位葉への光線不足による乾燥不良葉、上位葉の異状生長による色沢不鮮明等により品質は極度に、低下をきたしていることは事実である。

農作物は天候に左右される度合が大きいといへども、人

度までは、井ぞぎの工事、根占の池山から、大根占の榮立までの幹線水路工事を県営工事で行うことになっており、これをやらねと大根占地区の水不足は解決することはできない。従つて、この工事が終わらないと、区画整理事業まで県営工事で行うことはむづかしいといふことでありました。このようないきさつを経て、町としては、県営で実施することは当分むづかしいという判断で、三十九年度は、上ノ宇都前と、役場の上と二ヶ所二一・六ヘクタールの事業を団体営で実施されるよう県を通じて農政局に要望、このほど了解され、現在実施設計の作業中であります。

この関係農家には、説明会を開きましたが、出席者が少なかったため、いままでの経過をお知らせして御了解をお願いしたいと思ひます。

なお、いまのところ、二一・六ヘクタール全部を三十九年度で実施できるか、予算の配分がまだ決定しないのではつきりしていません。この一日ごろまでには決定する見込みであります。

また、今回は団体営で実施したところも、県営でやったところも、経費の負担はブル計算で、負担は同じようになるようにすることになって

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

ことしは上ノ宇都から

大根占水田区画整理事業

大根占水田の区画整理事業は、土地改良区が事業主体となる団体営工事として三十九年度から実施する予定で準備を進めていたところ、熊本農政局から現地調査にこれらたとき、大根占水田と根占の水田は同じ水路を使っている同一団地とすれば二〇〇ヘクタールをこえるので、県営事業として実施でき、補助金も七割で有利となり、農家負担も軽くなるということになりました。

そこで、県営事業として実施したいということで交渉したところ、県としては、現在大根占土地改良区は、四〇年

為めに、これを克服する部門が相当数取り残されていると思われ。

省力栽培とは、たゞ作業の放任ではなく五分間のやり直しよりも五時間の計画でなければならぬ。

育苗技術の改善により箱育苗を取り入れ、根群の発達を計り早植早進をはかり、土質による施肥技術を研究し、良質葉の多産に努めるべきである。収穫乾燥においても労働力の配分をよくし、乾燥工程を科学的に研究する必要がある。最後の総仕上げである調理作業においては、着葉を基に結束することが基本であるが、本年作のような作柄に於いては、品質構成要素として

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

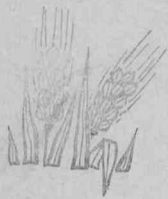
葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。

葉の大きさと形中支骨の太さ葉の厚さ、弾力、組織の粗密色沢等をよく調理する眼識の熟練が必要である。



ことしの冬作



たび重なる台風で 農作物の災害は、甚大で、町全体の推定被害額は20号台風で9251万円となっています。

さらに、甘しょ価格の低落むぎ、なたねの低い生産性などから生産意欲を非常に減退させているようです。

このような不況を乗りきるためには、さきに町で作った営農指図を どうして具体的に実施してゆかにありますと

◎上場地帯

①県が奨励している「てん菜」の管理に心がける。まず間引き、中耕、追肥は早目にし、間引き苗は、発芽していないところに移植する。また間引き苗が余った、捨てないで別の畑に移植し、なるべく面積をふやして増収をはかるようにする。

②「甘しょ」は、計画出荷して、一時に滞貨して、価格の暴落を招かないようにする。あと作は、つとめて飼料としての考えから麦類、とくに小麦などを作つて、購入飼料を軽減するようにする。

③なたねは、最近菌核病の連続発生 長雨などで土作が続いていますが、甘しょ、稲作の災害 収入の激減しているときです。畑を全面利用して収入の道をほかりましょう。

なたねの直まきは、この中旬ごろまではよい。種子は、塩水選、ウスブルン消毒をかならずやりましょう。

追肥は、あまり早くやらないこと。春先の開花直前がよい。また、枯葉をとり除くと菌核病の防止になります。

④このほか、甘しょのあと作利用として、飼料作物、エンバク、コンモンベッチ、青刈ナタネなどを作つて飼料を確保し、和牛の短期飼育に利用して、資金の回転を有利にする。子牛も、他町市場にくらべると栄養が大部おとつてい

るようです。これから青刈が少なくなりますから、青草飼料を充分作つておきましょう。

⑤宿利原校区に大根占農協の指導で作っている「ニンニク」は、契約栽培で将来に希望のもたれる作物です。大切に管理して冬場の特産物に育てたいものです。

◎下場地帯

①水田、畑を利用して「早掘りばれいしょ」の増反が考えられる。植付けは、12月上旬

までにすませ、米年の4月中に出荷が終るようによしう。農協の一元計画出荷で価格の安定を計りましょう。

＝種子の相談は、農協へ＝
②エンドウは、現在順調に生育していますが、病害虫に注意が肝要、とくに、初期にはクキモグリ、ウラナミシジミが発生します。エンドリン乳剤で防除します。

後期にはウドンコ病が発生しますからカラセンを散布、また、今後当分水利の関係で水稻の早期栽培ができないところがあります。やゝ早期よりおくれますが、準早期水稻としてアリアケ、ハマユウを作ると、えんどうの作付に間に合います。

③こんごの水田裏作として、花の栽培も有利であると考えられます。導入する花の種類販路などよく調査検討してみたいものです。

◎町の全域にわたって伸びている、みかん、葉たばこは、防風対策が第一の問題となります。防風垣を立派に仕立てないとよい成果はあげられませんが、導入する花の種類販路などよく調査検討してみたいものです。

◎町の全域にわたって伸びている、みかん、葉たばこは、防風対策が第一の問題となります。防風垣を立派に仕立てないとよい成果はあげられませんが、導入する花の種類販路などよく調査検討してみたいものです。

◎町の全域にわたって伸びている、みかん、葉たばこは、防風対策が第一の問題となります。防風垣を立派に仕立てないとよい成果はあげられませんが、導入する花の種類販路などよく調査検討してみたいものです。

◎町の全域にわたって伸びている、みかん、葉たばこは、防風対策が第一の問題となります。防風垣を立派に仕立てないとよい成果はあげられませんが、導入する花の種類販路などよく調査検討してみたいものです。

◎町の全域にわたって伸びている、みかん、葉たばこは、防風対策が第一の問題となります。防風垣を立派に仕立てないとよい成果はあげられませんが、導入する花の種類販路などよく調査検討してみたいものです。

甘しょ 早期出荷で 値下りを防ぐ

本町における甘しょは、その生産額一億二千万円（三十八年経済調査）とたばこに次ぐ重要産物の地位を占めている。たばこ作以外の農家にとっては、甘しょ作の好凶、価格の高低は最大の関心事である。今年は二・三割の減収に加えて、価格も昨年より四割安と、農家にとって甘しょは泣かない現状である。価格は更に値下りの一途をたどりつゝある現在、何等かの

対策が要求される。安値の原因は種々あろうが、(一)昨年の澱粉業者の大欠損、(二)国際砂糖相場下落、(三)澱粉消費の伸び悩みで過剰在庫、(四)甘しょ澱粉以外の澱粉増産等があげられる。

中でも(一)の澱粉業者の欠損がすくすく時期を迎えて、甘しょの値下り原因の一つである。例年ならば年明けの乱澱粉下落の心配は、甘しょの出荷をみると平年の五割しか出荷さ

ない。値下りの防止策は、たゞ一つ、みなさんが自分の都合を云わずにききあうから平均出荷をすることである。甘しょ価格をまもるのは農家の団結と協力以外に途はない。ばく然と平均出荷といつても具体制がないので、農協あたりで農協の予約をまとめて、これに

対応する時期別の出荷割当を指示すべきである。割当については、少々不自由をしのいでも出荷されるようお願いしたい。

◎澱粉買上げ予算の獲得を 政府はイモ作農家の保護策として、農産物価格安定法によるでん粉の買上げをする

ことになっているが予算の裏づけがないと実施は期待されない。ことし、基準価格を三、七五キロ当り三〇円と発表したが実勢相場が二四円しか

ないのは、澱粉買上げの予算があまり期待できないからである。予算さえ充分にあれば甘しょの全量が三〇円になることは間違いない。甘しょ作

の値下りを予想して、思惑で高くセリ買いをしていたが、今年は欠損を出さないために生澱粉相場とにらみ合して甘しょは買わないという考

え方が支配的である。十月末生澱粉三七、五キロ当り、八三〇・八五〇円が十一月五日八〇〇・八三〇円。十一月十日頃には、八〇〇円を割り込むのではないかと心配される。となると、甘しょは値上りなど絶対に望めそう

ない。値下りの防止策は、たゞ一つ、みなさんが自分の都合を云わずにききあうから平均出荷をすることである。甘しょ価格をまもるのは農家の団結と協力以外に途はない。ばく然と平均出荷といつても具体制がないので、農協あたりで農協の予約をまとめて、これに

対応する時期別の出荷割当を指示すべきである。割当については、少々不自由をしのいでも出荷されるようお願いしたい。

◎澱粉買上げ予算の獲得を 政府はイモ作農家の保護策として、農産物価格安定法によるでん粉の買上げをする

ことになっているが予算の裏づけがないと実施は期待されない。ことし、基準価格を三、七五キロ当り三〇円と発表したが実勢相場が二四円しか

ないのは、澱粉買上げの予算があまり期待できないからである。予算さえ充分にあれば甘しょの全量が三〇円になることは間違いない。甘しょ作

の値下りを予想して、思惑で高くセリ買いをしていたが、今年は欠損を出さないために生澱粉相場とにらみ合して甘しょは買わないという考

お金は有効に 事業資金の蓄積を

農林省統計調査事務所は、三十八年度の農家所得及び家計費の支出状況をまとめて発表したが、それによると本県の農家所得は三十八万三千七百円で前年に比較して二六・九パーセントの伸びを示している

が、これは稲作、甘しょの豊作の値上りたばこの増収と価格引上げなどが、その原因となつてい

る。このように生活経費の伸びることは、農家の生活改善意欲の高まってきたことと結構なことであるが、開放経済の中であまり条件のよい本県農業の構造では、世界農業との競争どころか国内競争ですでに遅れをきたしていることを思うとき、いまだ少額の使い途を考へるべきではない

でしょうか。農家のみなさん、全町民のみなさん、まづ冗費を節約して事業資金の蓄積につとめま

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農

等外米も買入れ 生産者米価きまる

ことしの生産者米価は、農